

「礼の心」を重んじ、 魅力ある学校づくりをめざして

永平寺町教育委員会

「永平寺町」は、平成18年2月に九頭竜川の中流域にある松岡町、永平寺町、上志比村の3町村が合併し、「うるおい、やすらぎ、人がきらめくまち」として力強く、今日の第一歩を踏み出した。近くに「越の王墓・松岡古墳群」や大本山永平寺を有し、夏には九頭竜川において「永平寺大燈籠ながし」が行われるなど歴史と文化のロマンが息づいている。一方、「福井大学医学部・福井県立大学」や「中部縦貫自動車道」など未来を担う近代的な建造物も交錯し、温故知新に富んだ町でもある。

人口約2万人。健康長寿な福井県にあって、「町の大切な宝だから、子育ては地域ぐるみで」として、県内でもいち早く幼保一元化の教育を取り入れるなど、「子育て支援」に手厚い町政が推進されている。

なかでも旧永平寺町は、四季折々の美しい自然と禅の心に育まれた地域で、760年間、厳しい作法による座禅、掃除などを修行とする伝統が文化として息づいている。



永平寺大燈籠ながし

1 はじめに

永平寺町には小学校7校（児童数約1042人）、中学校3校（生徒数約573人）がある。今年度の永平寺町学校教育方針には、「ふるさと永平寺町を誇りに思える魅力ある学校づくりをめざして」を掲げ、重点努力目標として、「礼の心」を重んじ、夢や希望を持って粘り強く学び、行動力のある児童生徒の育成を目指している。上志比中学校と永平寺中学校において、30年近く続けられている「礼の心」を基盤とした実践活動が、町内のすべての小中学校に広がり、永平寺町の特徴ある教育活動となっている。

この「礼の心」は、武道で学ぶ礼儀作法「礼」に始まり、礼に終わる」にも通じている。また、武道は、相手がいて初めて成立する運動であり、互いの激しい闘志を適



外部指導者による剣道指導風景

中学校武道必修化における永平寺町内の3つの中学校の武道授業では、剣道・柔道を中心に取り組んできている。永平寺中学校では、武道場において、柔道を中心に取り組んでおり、部活動においては外部指導者を招いての剣道指導に力を入れている。

2 永平寺中学校における「武道」の指導について

昭和61年から63年まで取り組んだ「格技指導推進校」指定を受けた当時には、女子生徒は剣道学習、男子生徒は柔道学習を体育館や武道場で行い、年間授業時数も20時間ほど配当していた。また学年体育という時間を設定して、学校全体が武道（当時は格技と言っていた）に取り組んでいた。

その後の授業では、学校選択で剣道や柔道を取り入れながら実施し、その年々に学習内容が検討されていった。基本的グラウンドが使えない時期である11月から1月の時期に行っていた。平成24年度「中学校武道必修化」完全実施を受けて、1年から3年まで年

間8時間の柔道を行うようになった。柔道衣は3年間使用するため、個人個人購入の形をとっている。男女共修で、武道場で実施するようにになった。

柔道の指導においては、基本動作と対人的技能とを結びつけて、取り扱うこととした。特に、受け身については、単元導入の早い時期から行い、単元全体を通して指導を徹底した。また、技をかけやすくなるために、片足の姿勢で攻防する投げ技の簡易試合や長座姿勢から行う固め技の簡易試合を取り入れた。

柔道を通して、礼儀作法を重んじるとともに、相手への思いやり



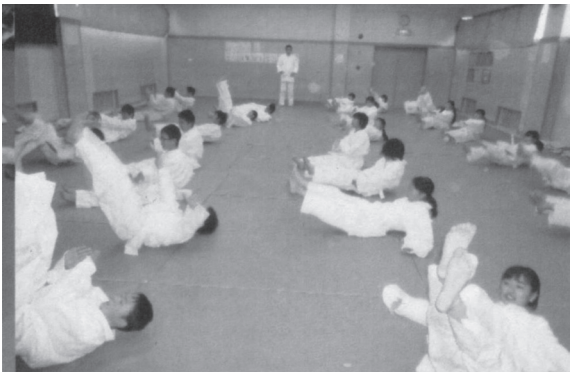
昭和 62 年度当時の体育館での剣道授業（女子）



昭和 62 年度当時の武道場での柔道授業（男子）



現在の武道場での柔道授業（男女共修）



そこで、当時の教員は、冷静に自分を見つめる態度や心、感謝の心、思いやりの心を育てることを目指して、「一人の人間」として、自分の心に問い直す時間を持たせ、心のあり方、心構えを大切に

昭和 60 年代の当時は、当たり前のことが、当たり前になかった学校で、いわゆる荒れた学校であった。そのため、服装の違反など毎朝チェックをしていたり、チャーム着席の徹底が課題であったりした。また、人の話をしっかりと聞くことができず、「目で聞こう」を合言葉に指導していた。問題行動も多かった。

そこで、当時の教員は、冷静に自分を見つめる態度や心、感謝の心、思いやりの心を育てることを目指して、「一人の人間」として、自分の心に問い直す時間を持たせ、心のあり方、心構えを大切に

昭和 61 年から 3 年間かけて、「格技指導推進校」（文部省・福井県教育委員会指定）の指定を受けたこともあり、武道の「礼に始まり、礼に終わる」「自他共栄」の心を育てることを教育の基本と考えた。体育館を道場とみなして、入退場の際には、入り口付近で「礼（お辞儀）」をする取り組みを行った。体育の授業の開始の際には、正座黙想を始めた。そして、体育科だけの研究でなく、学校生活全体の取り組みとして生活部会・学習部会で実践活動内容の検討を行った。

永平寺中学校の「礼の心」を 基盤とした実践活動の始まり

の気持ちを持つことも重視している。柔道の学習を通して、相手を尊重しながら、学校教育全体の基盤となっている「礼の心」の教育にも通じている。授業の始まりに

は、普段の授業と同じように黙想を行い、柔道の学習に取り組むようにしている。授業で、基本動作を習得するだけでなく、礼儀・作法を重視する指導を行っている。

1 年生 指導計画

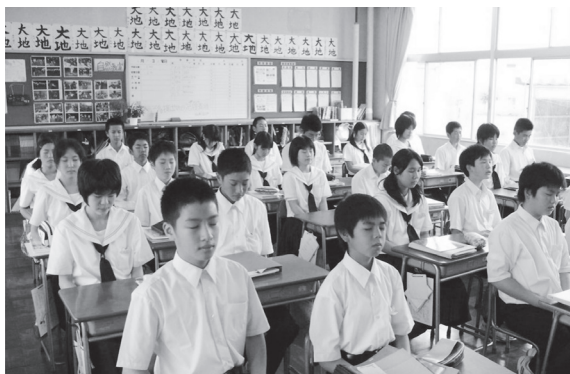
主な学習内容								目 標
時間	礼法	後ろ受け身	横受け身	けき固め	横四方固め	上四方固め	投げ技	
1	礼、立ち方、座り方	座位	座位					・柔道衣の扱い方、礼法などを理解できるようにする。 ・受け身を低い姿勢から安全に行うことができる。 ・固め技に必要な基本動作を身につけることができる。 ・投げ技に必要な基本動作、体裁きを身につけることができる。
2		しゃがみ姿勢	座位	受、取交互	受、取交互			
3		しゃがみ姿勢	座位	受、取交互	受、取交互	受、取交互	体裁き	
4		向かい合い手押し	しゃがみ姿勢	乱取り			膝車	・抑え込みの条件を理解することができる。 ・けき固め、横四方固め、上四方固めのそれぞれの基本的な抑え方を理解し、身につけることができる。 ・安全に気をつけながら寝技の自由練習をすることができる。 ・勝敗を素直に受け止め、相手を尊重することができる。 ・取は体裁きを使って膝車、支え釣り込み足の基本的なかけ方を身につけることができる。 ・受は身につけた受け身の技能を使って安全に投げられ、受け身をとることができる。
5		向かい合い手押し	しゃがみ姿勢	乱取り			支え釣り込み足	
6		向かい合い手押し	しゃがみ姿勢	乱取り			支え釣り込み足	・ある程度速度をつけた状態から受け身をとることができる。 ・取は体裁きを使って体落としの基本的なかけ方を身につけることができる。 ・受は身につけた受け身の技能を使って安全に投げられ、受け身をとることができる。
7		向かい合い手押し	しゃがみ姿勢	乱取り			体落とし	
8		向かい合い手押し	しゃがみ姿勢	乱取り			体落とし	

2 年生 指導計画

主な学習内容							目 標
時間	前回り受け身	寝技	足技	腰技	手技		
1	膝つき	復習					・けき固め、横四方固め、上四方固めのそれぞれの基本的な抑え方を理解し、身につけることができる。 ・安全に気をつけながら寝技の自由練習をすることができる。 ・低い姿勢から前回り受け身をとることができる。 ・取は支え釣り込み足の基本的なかけ方を身につけることができる。 ・受は身につけた受け身の技能を使って安全に投げられ、受け身をとることができる。
2	かがみ姿勢	乱取り	支え釣り込み足				
3	立位	乱取り	支え釣り込み足				・立位の姿勢から前回り受け身をとることができる。 ・取は大内刈り、大腰の基本的なかけ方を身につけることができる。 ・受は身につけた受け身の技能を使って安全に投げられ、受け身をとることができる。
4	立位	乱取り	大内刈り	大腰			
5	立位	乱取り	大内刈り	大腰			・歩きながら前回り受け身をとることができる。 ・取は大外刈り、払い腰、背負い投げの基本的なかけ方を身につけることができる。 ・受は身につけた受け身の技能を使って安全に投げられ、受け身をとることができる。
6	歩いて	乱取り	大外刈り	払い腰			
7	歩いて	乱取り	大外刈り	払い腰	背負い		・安全に留意し自由練習を行うことができる。 ・勝敗を素直にみとめ、相手を尊重することができる。
8	歩いて	乱取り			背負い	乱取り	

3 年生 指導計画

主な学習内容							目 標
時間	前回り受け身	固め技	足技	腰技	手技		
1	膝つき	復習					・けき固め、横四方固め、上四方固めのそれぞれの基本的な抑え方を理解し、身につけることができる。 ・安全に気をつけながら寝技の自由練習をすることができる。 ・自分の技能にあった姿勢から前回り受け身をとることができる。 ・取はそれぞれの投げ技の基本的なかけ方を身につけることができる。 ・受は身につけた受け身の技能を使って安全に投げられ、技に応じた受け身をとることができる。 ・連絡技を理解し、約束練習をすることができる。
2	かがみ姿勢	乱取り	支え釣り込み足	大腰			
3	立位	乱取り	大内刈り	大腰			
4	立位	乱取り	大外刈り	払い腰			
5	歩いて	乱取り		払い腰	背負い		
6	歩いて	乱取り			背負い		
7	歩いて (左右交互)	乱取り				乱取り	・安全に留意し、連絡技を用いて自由練習を行うことができる。 ・勝敗を素直にみとめ、相手を尊重することができる。
8	歩いて (左右交互)	乱取り				乱取り	



授業始めの黙想



登下校時には校門で一礼する



大本山永平寺での参禅学習



体育館清掃前の黙想



授業後は無言清掃の時間

は席に着く。開始を告げるチャイムが鳴ると同時に、にぎやかにお喋りしていた子どもたちは、背筋を伸ばして黙想姿勢をとる。

学校中が静まりかえる。時間の流れの中に「動と静」を切り替える瞬間であり、授業に集中させる間の取り方として、チャイムと同時に体内スイッチが入る。メリハリの一つのつけ方と言える。

(3)無言清掃
午後3時25分、掃除の始まりで



大本山永平寺での参禅学習



当時の永平寺中学校には、地域に根ざした行事として、禅の心を育む体験活動（大本山永平寺での参禅学習）が昭和39年より脈々と受け継がれていた。参禅学習は、「地域の学校」として地域を知り、

地域に誇りを抱く教育活動となっており、子どもたちは、衣・食・住に関する基本的な行為（作務、薬石、開枕、座禅等）について、修行をとおして価値や厳しさを実感することができると取り組みであった。親から子へ、代々受け継がれた参禅学習は、永平寺中学校の大きな柱となっている。「地域の学校」として、地域を知り、地域で学ぶ、地域性を生かした特色ある教育として根づいていた。

上記のようなことから、昭和62年度「礼の心」を基本とした活動

がスタートした。当時の努力目標には、①礼の心（あいさつ、会釈）②心を磨く（無言清掃）③節度の確立（けじめ、始業前の黙想）④自力起床（早起き）の4つがあった。教育目標「仁」を基盤にすえ、全教育活動の中で実践した。

4. 永平寺中学校の「礼の心」を基盤とした特色ある活動の紹介

(1)校門での礼
登下校時、校門に立ち校舎に一礼する。「よろしくお願いします」「ありがとうございます」「ありがとうございました」の気持ちを含めて行われ、自然な作法として定着している。学ぶ者としての心構えとして、謙虚で素直な

心、感謝の心を見つめ直している。雨の日も風の日も変わらぬ光景として、歴代の在校生が受け継いでいる。

(2)授業始めの黙想
授業や集会では、2〜3分前に

ある。掃除の時間にも永平寺中学校には教育がある。私語一つしないうで拭き掃除にひたむきに取り組む子どもたちの姿がある。心を磨く時間なのである。掃除をとおして「創自の時間」としての教育活動が成立する光景が繰り広げられる。暑い夏も寒い冬も、掃除の時間になると、まずは黙想正座で集中し、毎日、15分間の拭き掃除に専念する。

最初の3日で「基礎の形」を作り、3週間で「形をマスター」し、3ヶ月で「形が当たり前」になり、3年間で「感謝の気持ちでの清掃」が身に付き、卒業の時には、良い思い出としていつまでも心に残るような貴重な体験になってほしいと願っている。生涯の宝になるものと信じている。

5. 永平寺中学校の教育の良さを再認識させた出来事

平成20年7月7日の夜、NHKの番組『鶴瓶の家族に乾杯』で本校無言清掃が、全国に放映された。

『「礼の心」を大切に』 永平寺中学校

～今後も受け継いでほしい大事な伝統～

校門での礼（登・下校時）

一日が、校舎に向かったの礼で始まり、礼で終わります。学び舎に集う心構えとして、心の礼儀を整えます。

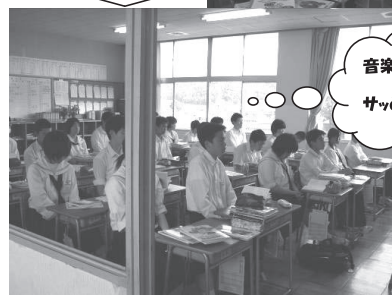


生徒会のみなさんが7時15分から校門に立って、明るいあいさつで出迎えてくれます。

ザワザワと自由に
過ごしていても...



音楽が鳴ると
サッと黙想へ



黙想

黙想をしている数分は学校中がシーンと静まりかえります

（授業の始め・清掃・帰りの会／全10回）
永中生は一日に、黙想を10回おこないます。精神を統一して自分自身を見つめる貴重な時間です。

登校

朝読書

朝の会

授業

（1～4限）

給食

昼休み

授業

（5・6限）

清掃

帰りの会

部活動

下校

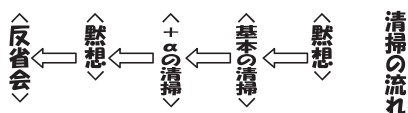
朝読書～文字とのふれあい～

勉強に入る前に心を落ち着かせ、読書に集中。心を豊かにし、自分を成長させる大切な時間です。



無言清掃～大事な気づき～

みんなが勉強に運動にと、よりよく過ごせるように環境整備。
口は使わず心を使って、集中しながら清掃をします。



場所の移動はすべて駆け足。無駄な時間を短縮します。
終わったころには汗だくです

福島県 62歳の方より寄せられた手紙

貴校にとっては伝統であり些細なことと、清掃も黙想も「校門での礼」も、まるで「呼吸するがごとき感」があり、ごく当たり前のことなのでしょう。人生って、所詮、そんな当たり前の繰り返しが人をつくり、人格を形成し、自己を確立していくものだと思います。日本人の本当の姿はこうなんだよと教えられた気分でした。今日まで伝統を受け継いで来られた歴代の在校生、そして、半世紀に渡って学校を支えてきた地域風土の大きさに敬服です。

来訪者の感想

早朝、えちぜん鉄道の永平寺口駅に着いて学校まで歩くと、地域の多くの方々が挨拶の声をかけてくれました。地域の大人がつながり合っている証であり、子どもたちへの教育力となっているように感じました。

6

おわりに

TVの影響は非常に大きく、「今時こんな中学校があるのは、日本も捨てたものではない」とか「生きる基本を身につける教育の原点」と評する激励のメールや手紙等が全国から多く届いた。実際に学校を訪問される方々も多くあり、現在も、多くの来訪者が後を絶たない。

また、生徒自身にとっては、今のような形で行われている校門での礼、黙想、無言清掃など、どれをとっても「特別」なものではなく、「あたりまえの活動」として行っている。誰が見ていようが、見ていまいが、毎日「あたりまえの事を、コツコツと、ひたむきに、日常の生活の一部として行っている」だけである。

「あたりまえの活動」の中で、武道を通じて学ぶことができる礼儀・作法や「静と動」の学びを得る。3年生の掃除は本当に感動させてくれる。すてきな先輩の姿が、1・2年生へのあこがれになり、継続への大きな要因になっているのであろう。始業時や黙想時には、一瞬人気なくなつたような錯覚すら覚える。あの静寂さには、本当に心が洗われ、本当に心地よさを感じる。生徒たちもまた、この心地よさを求めているのではないかと感じている。



志比南小学校の玄関前で礼をする児童

町内のすべての小中学校に「礼の心」の教育が広がり、永平寺町の特色ある教育活動となりつつある。そして、地域風土のもつ教育力に支えられながら、「ふるさと永平寺を誇りに思い、愛し、将来の永平寺町を支えてくれるような人づくり」をめざしていきたい。